

## 110) 最後の夜

(M)

ふたり暮らした白いアパート      ここが僕らの始まりだった  
1DKのドラマは終わり              僕たちふたり他人に戻る  
最後の夜はふたり出逢った          自由ヶ丘のカフェミラージュで  
お前の好きなバラード歌って      白いワインを飲み明かそうか

(F)

6年前を覚えていますか              ふたり出逢ったあの頃のこと  
わたしの仕事うまくゆかずに      心に隙間<sup>すきま</sup>できていたのね  
あなたはそこに忍び込んだの      わたしが少しも気づかぬうちに  
気づいた時にはあなたなしには   生きてゆけないわたしだったの

(M)

あの頃僕はお金がなくて           生きてゆくのがやっとだったね  
夏が来るたび海へ行こうと          約束したけど果たせなかった  
こんなに早く別れが来るなら      あのと看海へ行けばよかった  
過ぎた季節の後悔ばかり           僕の心にかみあげてくる

(F)

貧乏だけど幸福だった              あなたのことを愛してたから  
あの頃ふたり若かったから          愛さえあれば許し合えたの  
明日からわたし荒れ地に咲いた   アザミのように生きて行くのね  
別れてからもわたしのことを      いつも遠くで見たいほしい

(F)

貧乏だけど幸福だった              あなたのことを愛してたから

(M)

6年間の歴史を綴<sup>と</sup>じて              僕たちふたり他人に戻る